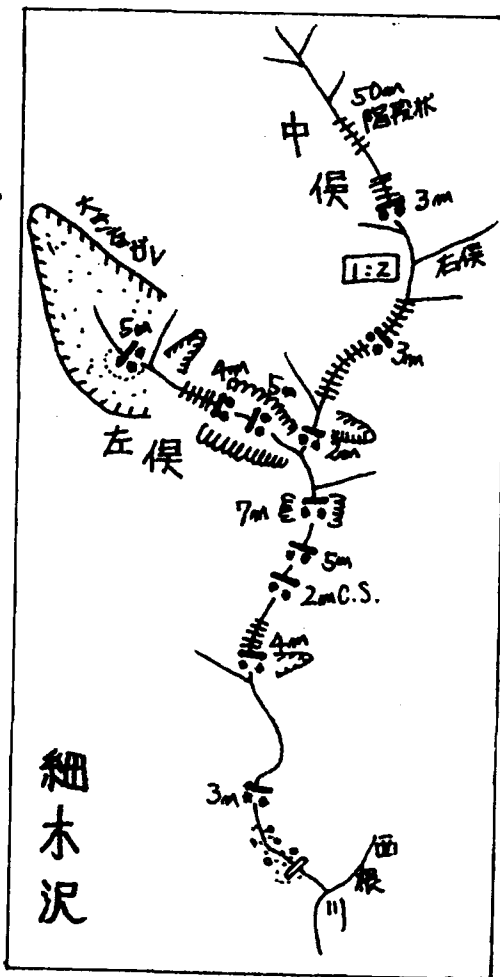


かる。右岸のガレ場を携き源頭部をむかえるが、水量がかなり少ないうえ、この先は急傾斜のガレである。登りきるのはかなり危険なので、ここで遡行終了とし、いったん二俣まで戻る。

二俣から今度は右に入る。5分程でナメ床が現われ、15分程ナメを歩く。沢は明るく、適度に小滝があり、ナメの多い楽しい遡行である。10:35右俣出合。中俣に比べて右俣の方が水量が多いが、中俣は田代湿原に突き上げる沢であり、少しでも早く下山しようと、中俣にルートをとる。

20分程歩くと、階段状の50mナメ床があり、庭園のような雰囲気である。やがて水が濁れる。浅いヤブの源頭部を20分登ると踏跡があり、12時ちょうどに太子堂近くの木道に出る。(記)

[タイム] 出合(8:25)→左俣出合(9:15,  
9:30)→左俣遡行終了(10:00)  
→二俣(10:15)→右俣出合(10:35)→遡行終了(11:25)



## 湯ノ岐川流域の沢

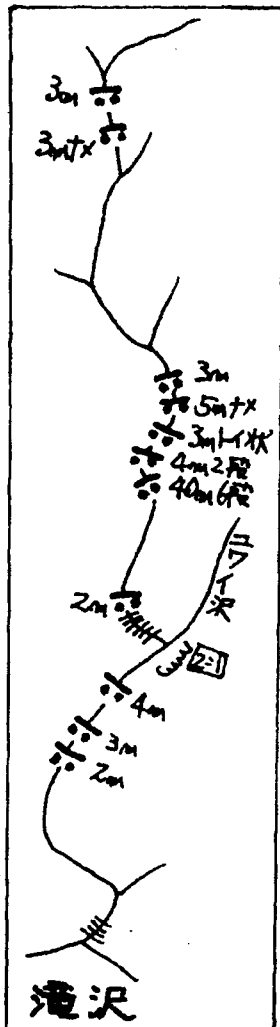
湯ノ岐川は、西根川と尾根1本ををへだてて同方向に流れ、同じ館岩川に合している。1985年は、この地域の2本の沢を遡行した。

滝 沢

1985年8月17日

L

伯母岐川林道出合に車を置き、林道を歩き始めて20分程で伊勢沢橋に着く。林道はこの橋を渡り、左岸ぞいに続いているが、橋の下にナメ床が見えたので、沢に入ることにする。



まず、我々と佐藤守・岡本せい子の4人で一緒に登り始める。30mのナメの後は、平凡な沢が続く。8:10曲沢出合。曲沢は、沢が見えないほどヤブにおおわれており、水量も極めて少ない。曲沢より15分でウチノボリ沢出合に着く。林道はこの地点まで延びている。

10分間休憩の後、歩き始めて5分で岡本が転倒し、右手てのひらに裂傷をおう。沢の中とはいえ、林道も近いので、佐藤・岡本のパーティで下山し、我々は遡行を続けることにする。

左岸に枝沢を2本分けた後、小滝が現われてくる。50mのナメを通過し、さらに小滝を一つ越えるが、地図上に記された滝はなかなか出てこない。「幻の大滝か」などと話しているうちに、遠くに白いものが見えてきた。「あった。あった」と心ときめかせながら、この沢の核心部である6段40mの滝に近づく。

下から見た感じでは直登できるように思えたので、1段目より慎重に登る。3段目まで登るが、4段目は取り付きにくく、また最上部の6段目は直瀑であり、その左右ともスラブ状の岩場でフェイスクライミングを強いられそうなので、直登をやめ、ここより右岸を捲く。この滝の通過に25分費やす。このあとは大きな滝もなく、全て容易に登れる。

12:00二俣に着く。左右ともガレ状になっており、ここで水は濁れる。ゆっくり昼食をとって、左俣に入る。15分程登ってから左のヤブに入り、小田代小屋へ続く登山道に出ようとしたが、尾根上に踏跡は発見できない。そのままネマガリダケのヤブこぎを続け、13:50いったん曲沢源頭部に下降してから、沢筋を登って小田代に出る。

(記)

[タイム] 伊勢沢橋(7:35)→遡行終了(12:00)

赤岩沢中俣右沢

1985年8月18日

L.

赤岩沢にそって、地図には出ていない林道を進む。この林道は右俣出合の少し